



2027年3月期 第1四半期決算説明会



新型コンパクトSUV
「ブレッツァ」

2026年8月5日 スズキ株式会社

- 当期決算は原材料高騰影響を、日本など各拠点での稼ぐ力の向上により吸収し増収増益
- 通期予想は中東情勢の影響を織り込むが、稼ぐ力を向上していく考え

2027年3月期 第1四半期決算

- ・ 売上収益 1兆7,058億円、営業利益 1,580億円、営業利益率9.3%
- ・ 原材料高騰影響を、日本など各拠点での稼ぐ力の向上により吸収し増収増益
- ・ 売上収益および全ての利益項目について過去最高

2027年3月期 通期予想

- ・ 売上収益は1,000億円上方修正し6兆9,000億円
- ・ 営業利益は今回、中東情勢悪化の影響としてマイナス1,100億円を反映、同時に稼ぐ力の向上を織り込み、300億円下方修正の5,400億円を予想
- ・ 中期経営計画の実現に向けた成長投資を進め、稼ぐ力の向上に引き続き取り組む

目次

サマリー	2
2027年3月期第1四半期決算	4～12
総括	4
四半期毎の業績	5
営業利益増減要因	6
四輪・二輪台数実績	7～12
通期業績予想	13～17
総括	13
営業利益増減要因	14・15
四輪・二輪台数情報	16・17
トピックス	18～23
補足資料	24～34

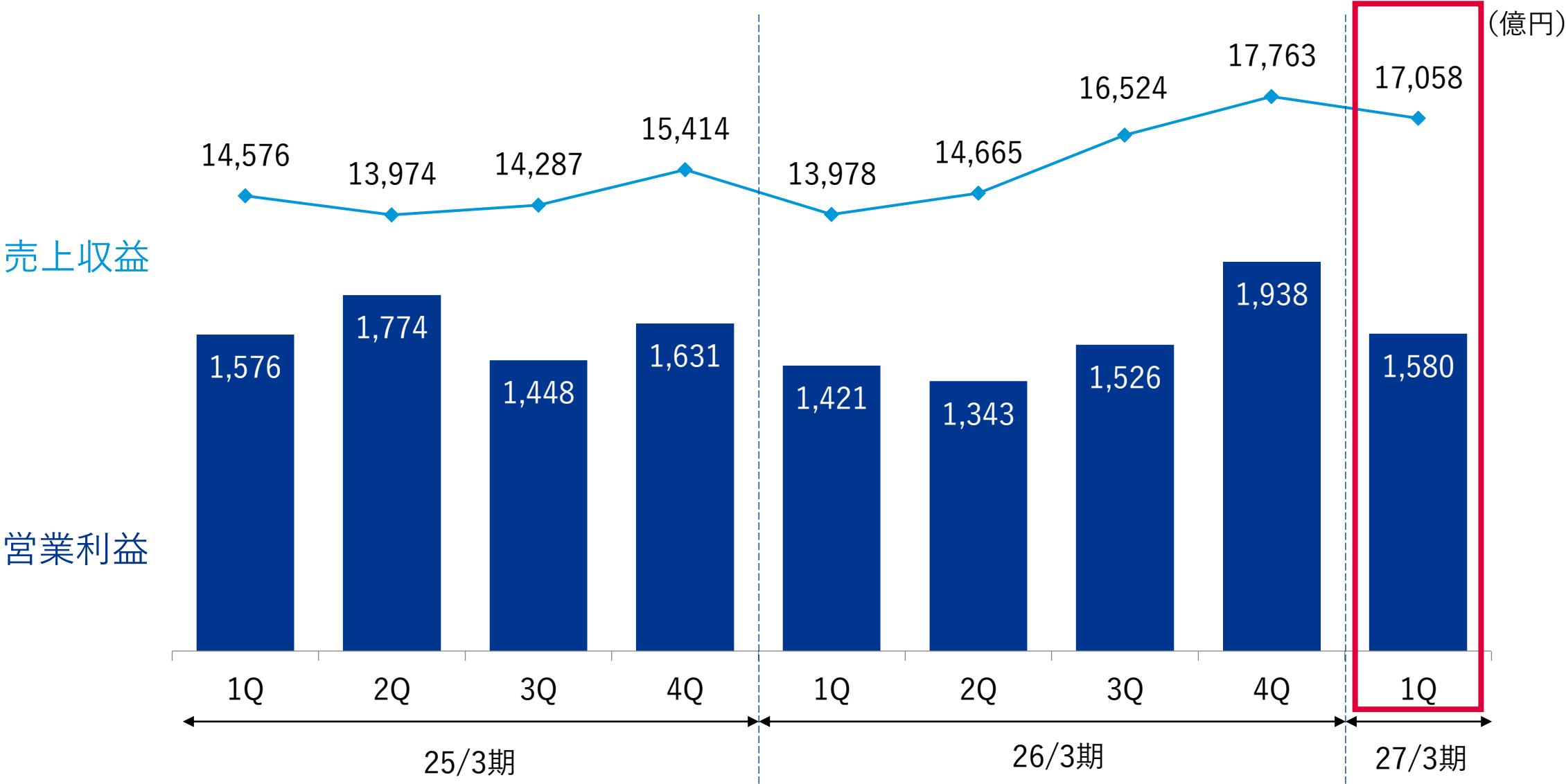
2027年3月期 第1四半期決算 | 総括

- 売上収益は販売台数の増加と為替影響により増収
- 営業利益は原材料高騰影響を日本など各拠点での稼ぐ力の向上により吸収し増益
- 税引前利益および四半期利益は金融資産の評価益等により大幅増益

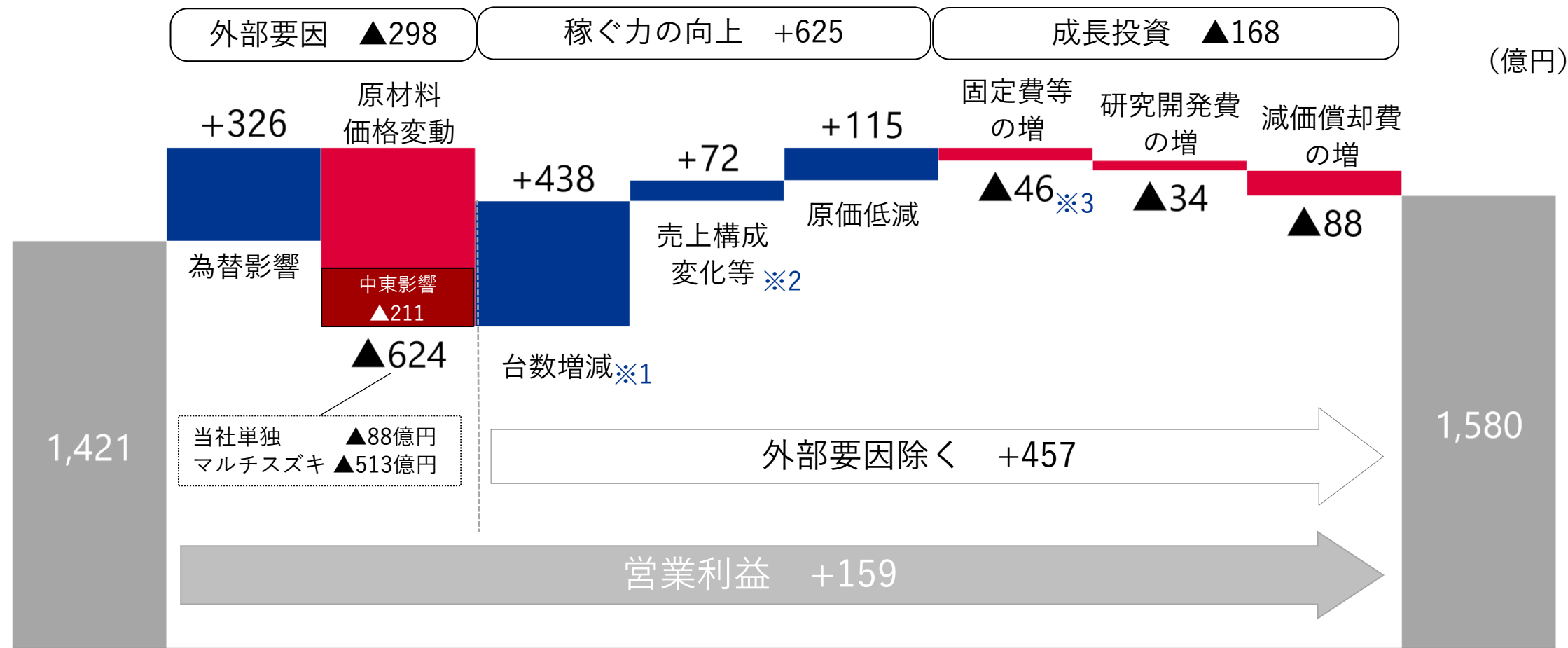
(億円)		当第1四半期 ('26/4-6)	前年同期 ('25/4-6)	増	減	補足
				増減率		
連結 業績	売上収益	17,058	13,978	+ 3,080	+ 22.0%	2期ぶり 増収、過去最高
	営業利益 (利益率)	1,580 (9.3%)	1,421 (10.2%)	+ 159	+ 11.2%	2期ぶり 増益、過去最高
	税引前利益 (利益率)	2,832 (16.6%)	1,757 (12.6%)	+ 1,075	+ 61.2%	2期ぶり 増益、過去最高
	四半期利益※ (利益率)	1,836 (10.8%)	1,020 (7.3%)	+ 816	+ 80.0%	2期ぶり 増益、過去最高
為替 レート	米ドル	160円	145円	+ 15円	+ 10.4%	
	ユーロ	185円	164円	+ 22円	+ 13.2%	
	インドルピー	1.70円	1.70円	—	—	
世界 販売	四輪車	897千台	754千台	+ 143千台	+ 19.0%	インド等で増加
	二輪車	579千台	548千台	+ 31千台	+ 5.6%	インド、中南米等で増加

※ 四半期利益は親会社の所有者に帰属する四半期利益

2027年3月期 第1四半期決算 | 四半期毎の業績



2027年3月期 第1四半期決算 | 営業利益増減要因



前年同期
'25/4-6

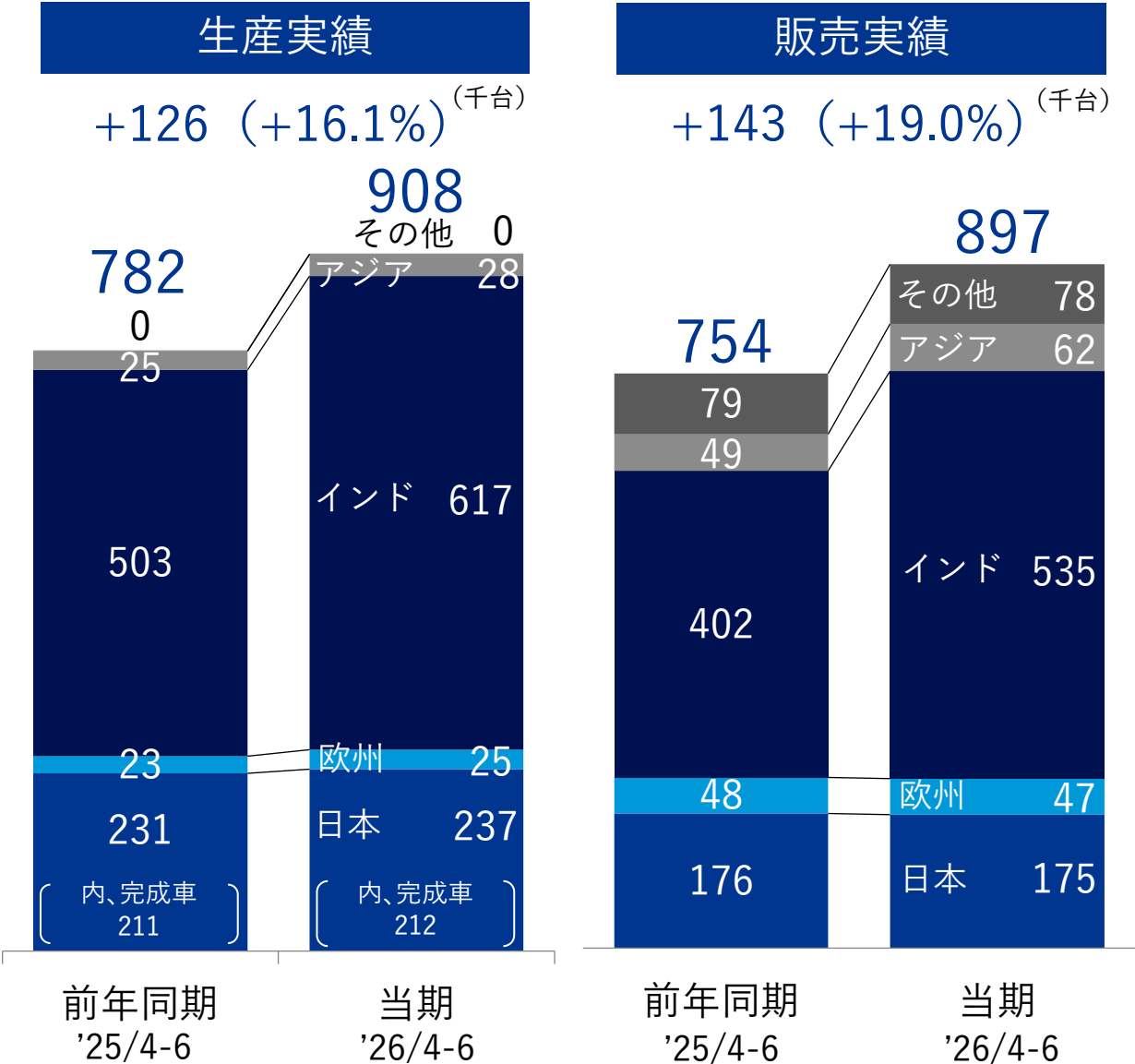
※1 台数増減影響 主な内訳
・ 当社単独 +73億円
・ マルチスズキ +310億円

※2 売上構成変化等 主な内訳
・ 当社単独 +53億円
・ マルチスズキ +122億円

※3 固定費等の増 主な内訳
・ 労務費 ▲89億円
・ 品質関連費用 ▲28億円
・ 営業政策費 ▲10億円
・ SMT工場売却益 +128億円

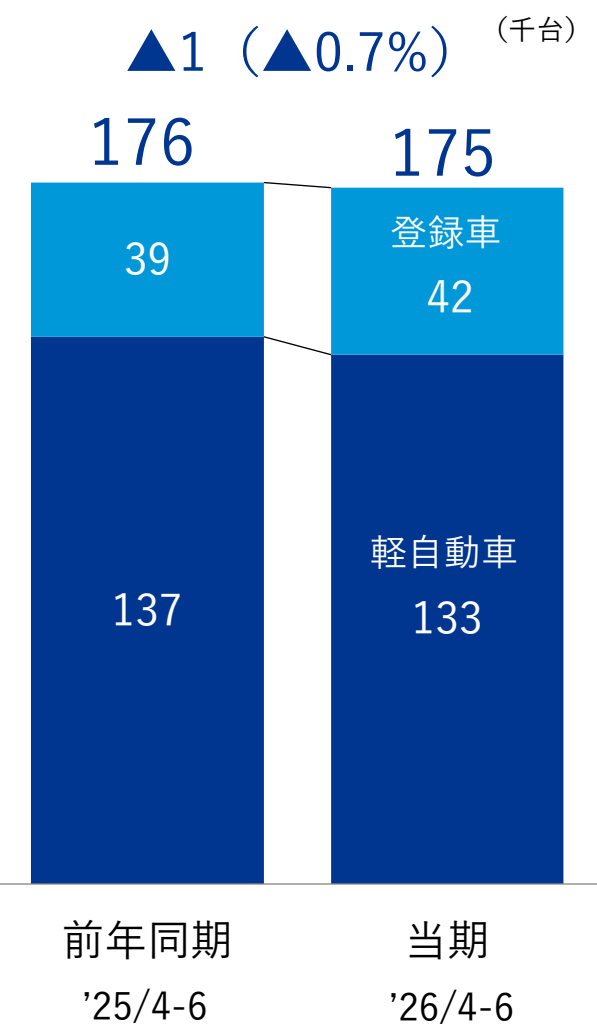
当期
'26/4-6

四輪台数実績 | グローバル



四輪販売台数 | 日本

販売実績

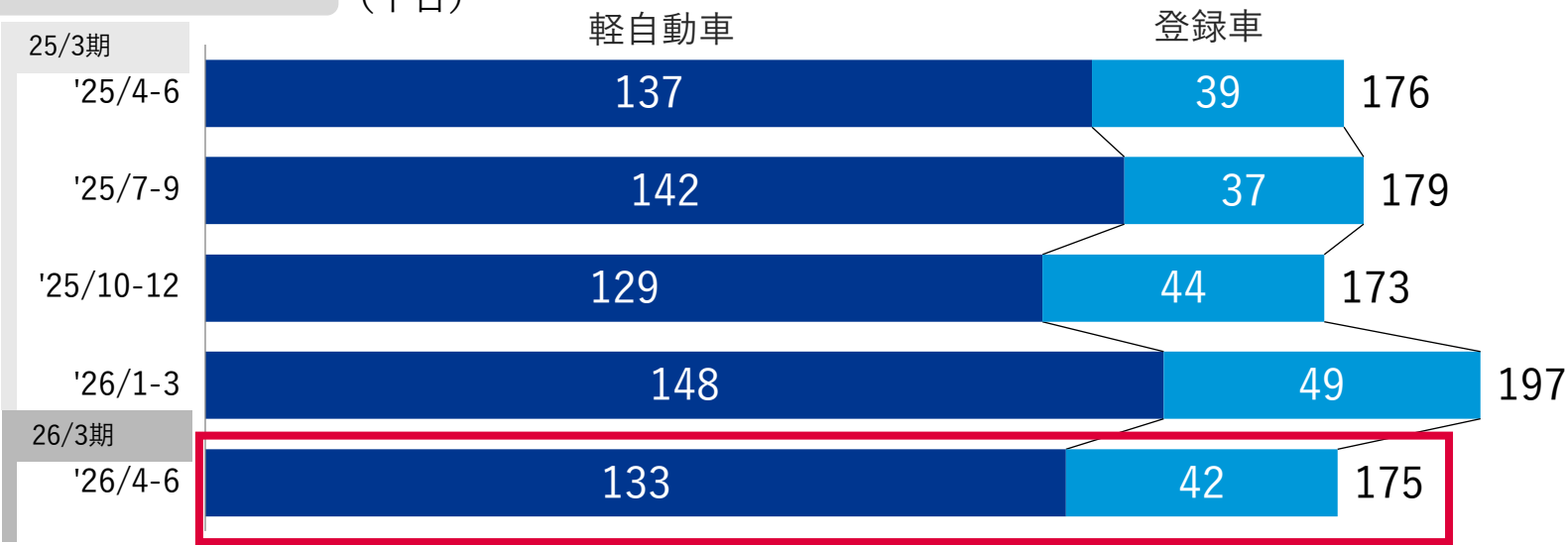


● 当期の販売状況

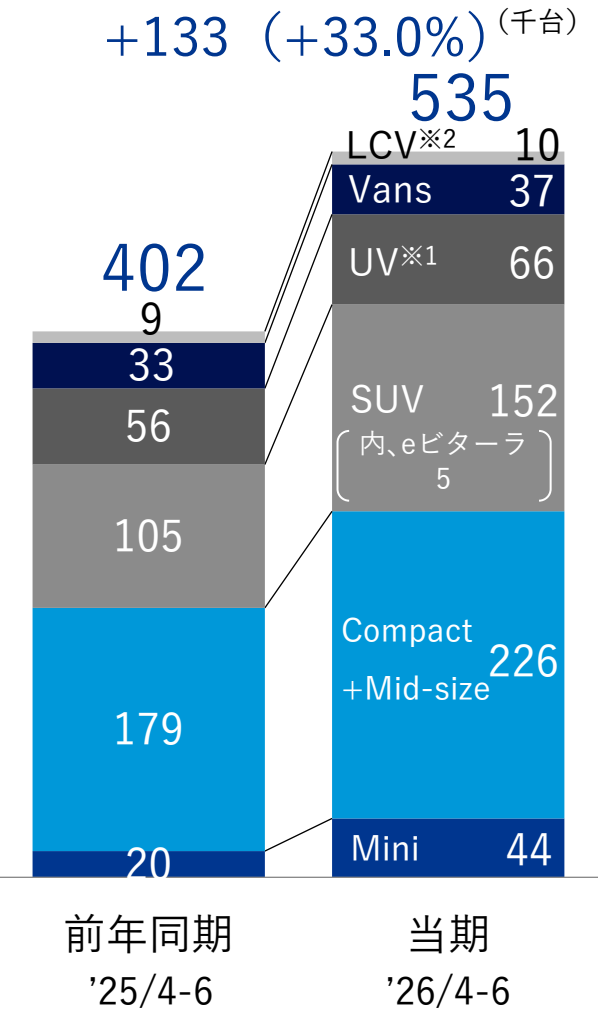
- ・ 軽自動車と登録車の合計販売台数は、シェア2位を継続
- ・ マイナーチェンジした軽自動車の「ハスラー」、「キャリイ」、「エブリイ」が好調
- ・ 登録車では「クロスビー」、「ジムニーノマド」が伸長



国内販売台数推移



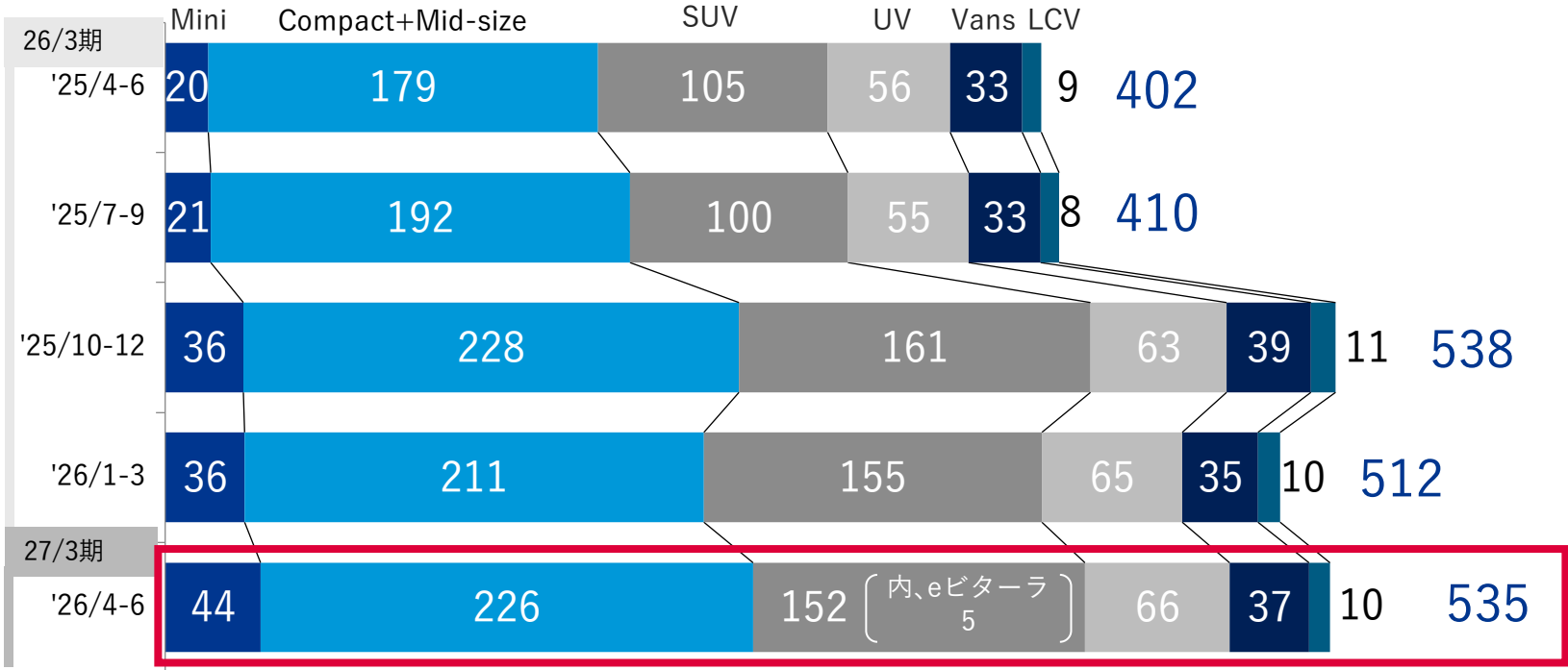
国内卸販売実績



● 当期の販売状況

- ・ 国内卸販売台数は、GST改正の追い風を受け、53万5千台(前年同期比+33%)と増加
- ・ 輸出台数は12万5千台(前年同期比+29%)と増加
- ・ カルコダ第二ライン、ハンサルプール第四ライン(Dライン)が稼働開始し、徐々に生産台数を増加させていく

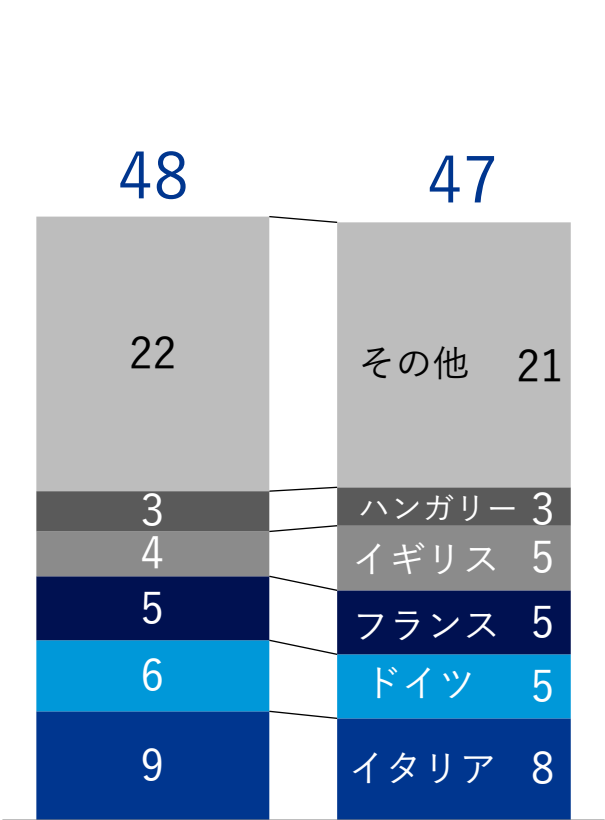
国内卸販売台数の内訳 (千台)



四輪販売台数 | 欧州 / アジア（インド除く）

欧州

▲0 (▲1.0%) (千台)

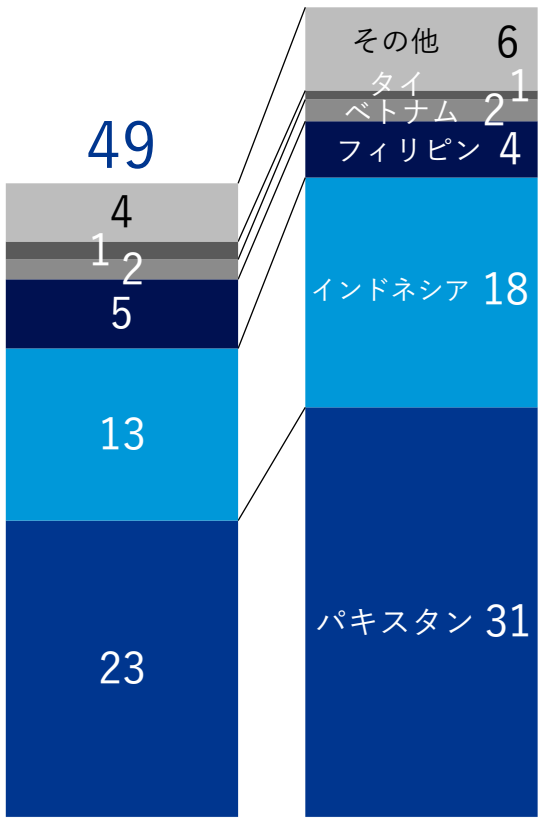


前年同期
'25/4-6

当期
'26/4-6

アジア（インド除く）

+13 (+27.7%) (千台)



前年同期
'25/4-6

当期
'26/4-6

● 当期の販売状況

◆ 欧州

- ・ イギリスでの販売台数が3か月連続で増加
- ・ 「スイフト」は欧州全体で引き続き堅調な販売

◆ パキスタン

- ・ 需要が引き続き堅調で、当期の販売台数は31千台（前年同期比+38.1%）
- ・ 中東情勢や燃料価格高騰の影響を受ける中、特に低燃費で好評の「アルト」が販売をけん引
- ・ CKD生産が始まった「フロンクス」が好調

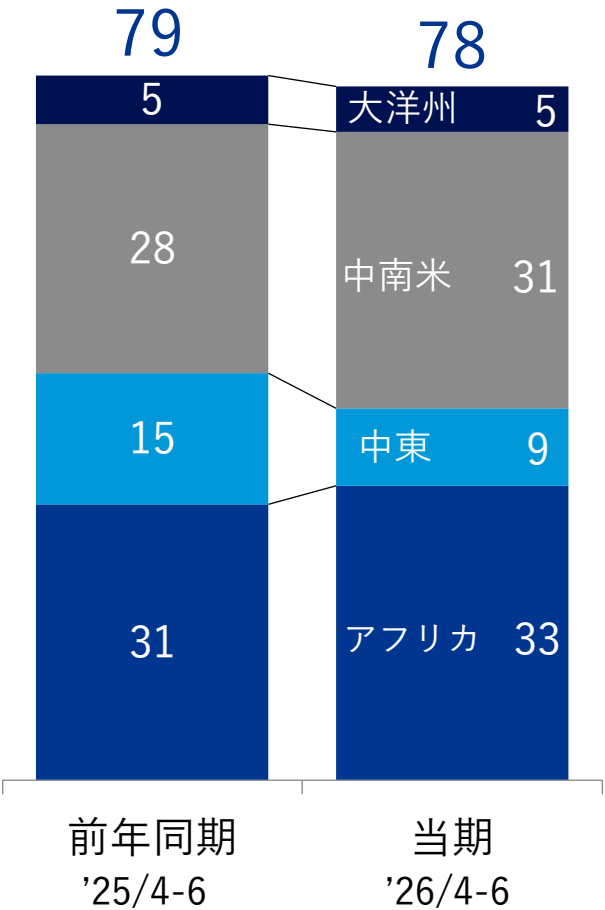


「フロンクス」

四輪販売台数 | アフリカ・中東・中南米・大洋州

販売実績

▲1 (▲1.6%) (千台)



トピック

- ・ アフリカではアンゴラの販売が前年同期比42.9%増でシェア1位と好調
- ・ 中南米での販売が堅調で、特にコロンビアで販売台数を大幅拡大
- ・ 中東ではイラン情勢の影響を受け販売台数減少

当期の販売実績

	台数	(千台)	
		前年同期比	
アフリカ	33	+2	+6.8%
南アフリカ	17	▲0	▲1.0%
アンゴラ	6	+2	+42.9%
中東	9	▲6	▲41.4%
サウジアラビア	7	▲3	▲30.0%
中南米	31	+3	+11.1%
メキシコ	7	▲2	▲21.3%
チリ	6	+1	+11.3%
コロンビア	5	+2	+102.4%
大洋州	5	▲0	▲6.4%

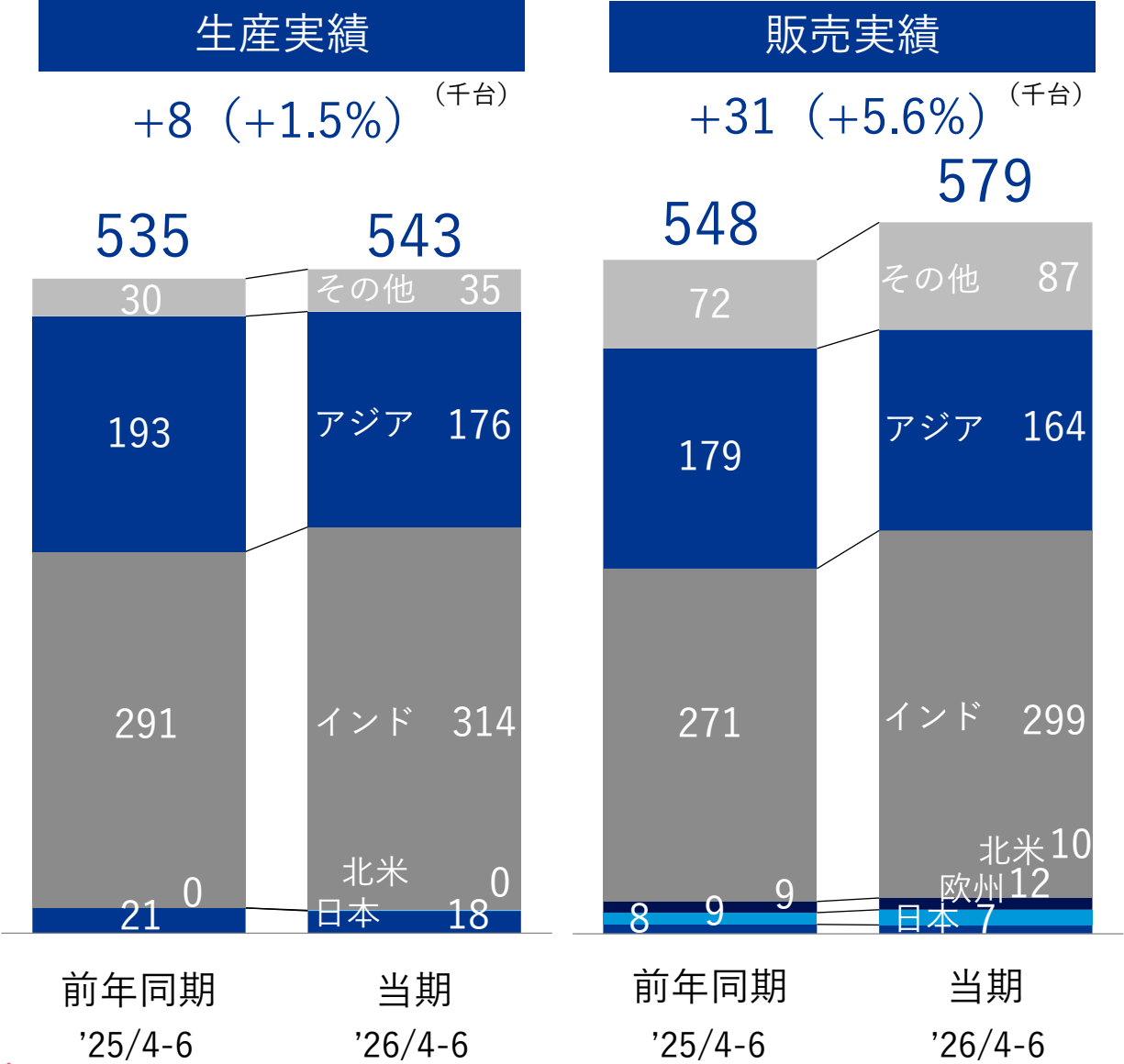
アンゴラで好調の
「エスプレッソ」



コロンビアで好調の
「ディザイア」



二輪台数実績 | グローバル



● トピック

- ・ 7月3日～5日、鈴鹿8時間耐久ロードレースに「チームスズキCNチャレンジ」として、ライダー以外は社内公募のスズキ社員で構成されたチーム体制で参戦
- ・ 環境負荷低減のさらなる推進と走行性能の向上を高いレベルで両立することを目指し、サステナブルアイテムの適用範囲を拡大し、高く評価されました
- ・ チーム一丸となり、カーボンニュートラルアイテムを使用したエクスペリメンタルクラスでありながら7位で完走
- ・ 今回の完走で得た知見や経験を、チームスズキで将来の製品開発への技術フィードバックにつなげていく

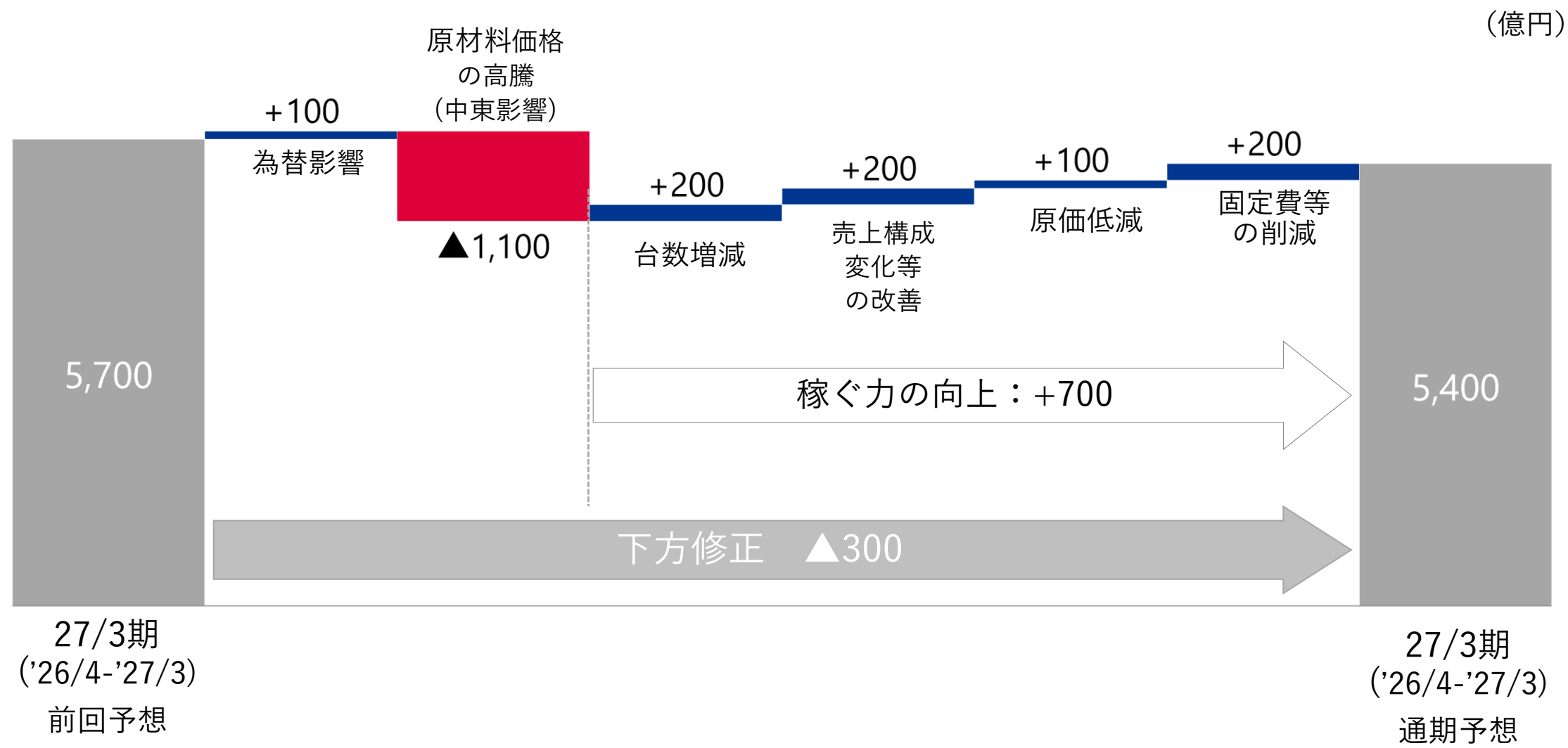


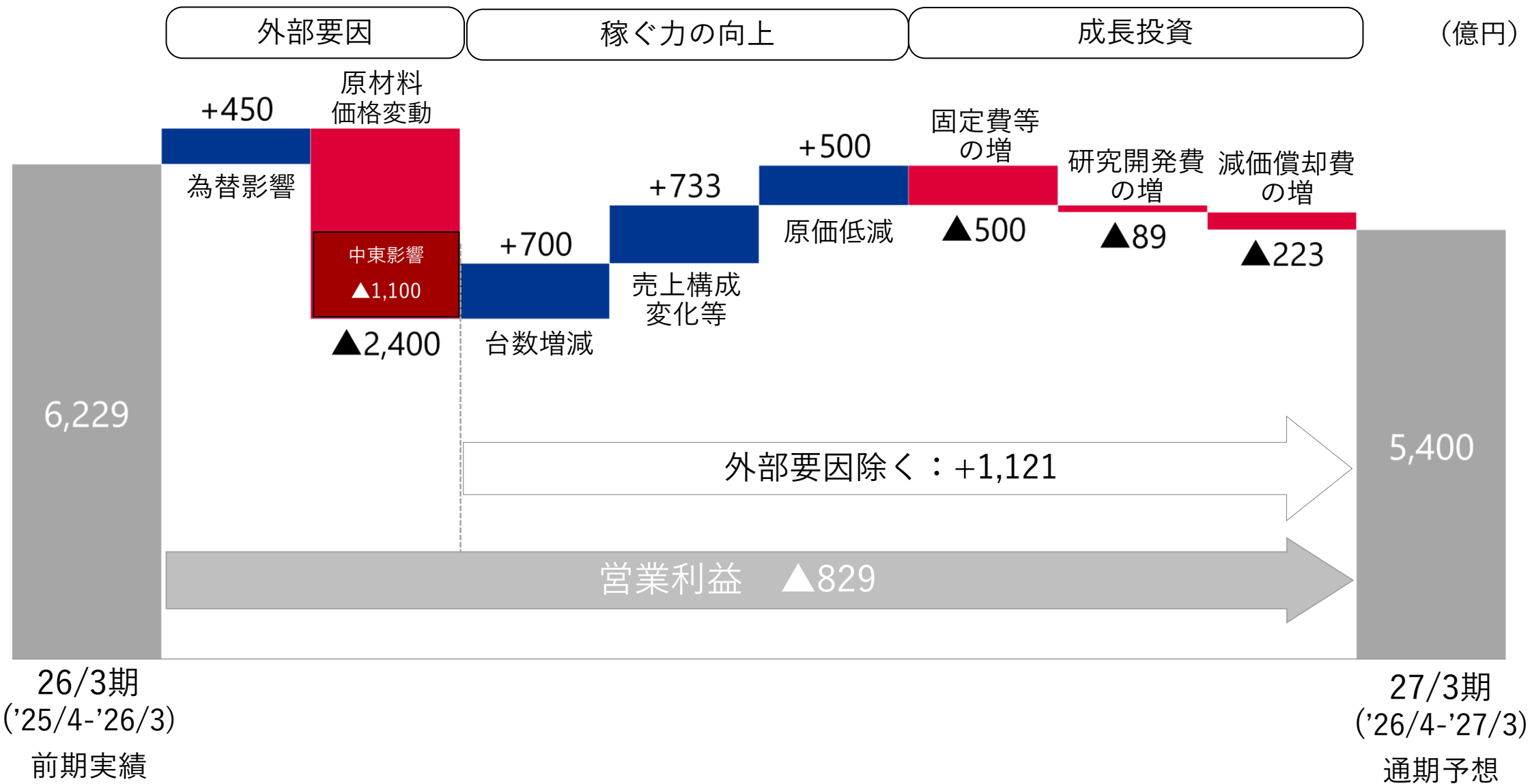
通期業績予想 | 総括

- 売上収益を前回発表から1,000億円上方修正し、6兆9,000億円を見込む
- 営業利益は、中東影響マイナス1,100億円を反映し、300億円下方修正となる、5,400億円を見込む
- 税引前利益および当期利益は第1四半期の金融資産の評価益を織り込み、ともに上方修正

(億円)		通期予想 ('26/4-'27/3)	前期実績 ('25/4-'26/3)	増 減		補足	前回予想との比較	
					増減率		前回予想	増減
連結 業績	売上収益	69,000	62,930	+ 6,070	+ 9.6%	6期連続増収	68,000	+ 1,000
	営業利益 (利益率)	5,400 (7.8%)	6,229 (9.9%)	▲829	▲13.3%	2期連続減益	5,700 (8.4%)	▲300
	税引前利益 (利益率)	7,200 (10.4%)	7,307 (11.6%)	▲107	▲1.5%	7期ぶり減益	6,600 (9.7%)	+ 600
	当期利益※ (利益率)	4,200 (6.1%)	4,393 (7.0%)	▲193	▲4.4%	7期ぶり減益	3,800 (5.6%)	+ 400
為替 レート	米ドル	158円	151円	+ 7円	+4.9%		155円	+ 3円
	ユーロ	183円	175円	+ 8円	+4.8%		180円	+ 3円
	インドルピー	1.68円	1.72円	▲0.04円	▲2.3%		1.70円	▲0.02円
世界 販売	四輪車	3,579千台	3,320千台	+ 259千台	+ 7.8%		3,554千台	+ 25千台
	二輪車	2,337千台	2,261千台	+ 77千台	+ 3.4%		2,321千台	+ 16千台

※ 当期利益は親会社の所有者に帰属する当期利益

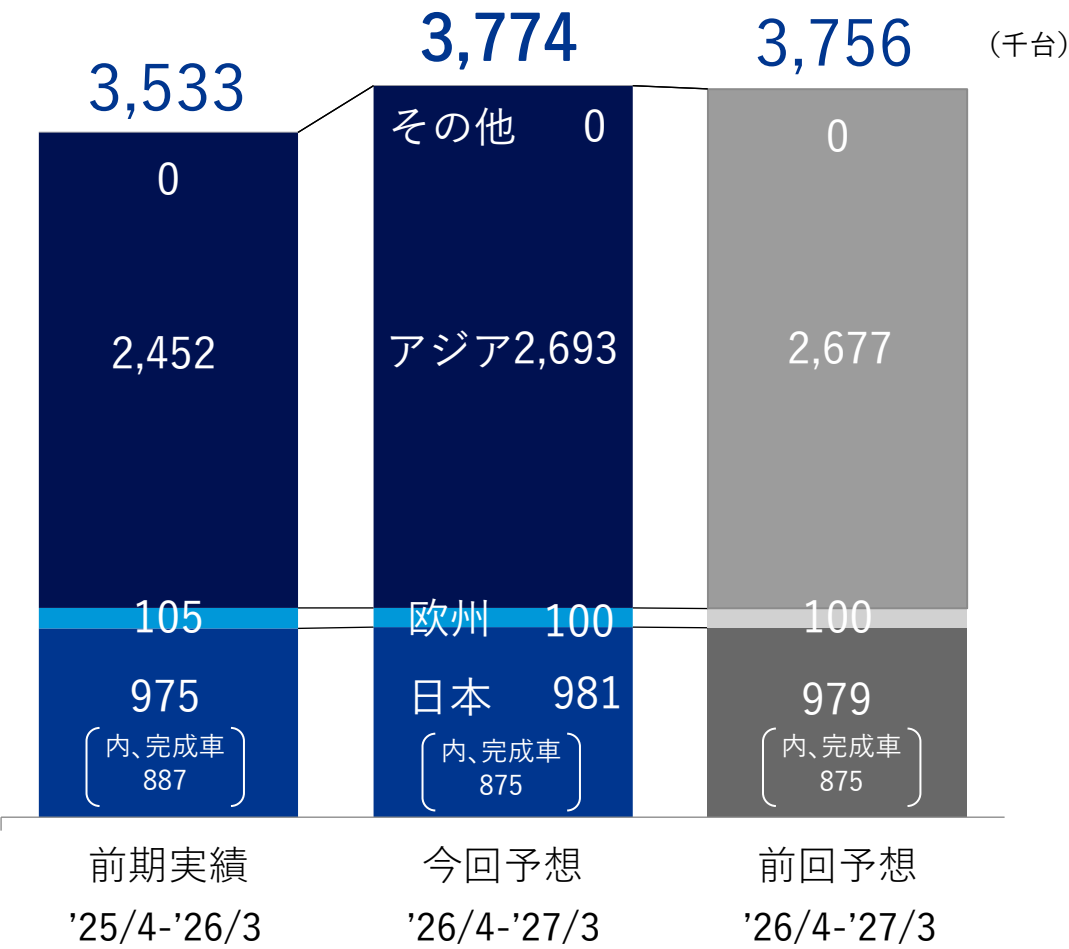




通期業績予想 | 四輪生産台数・販売台数

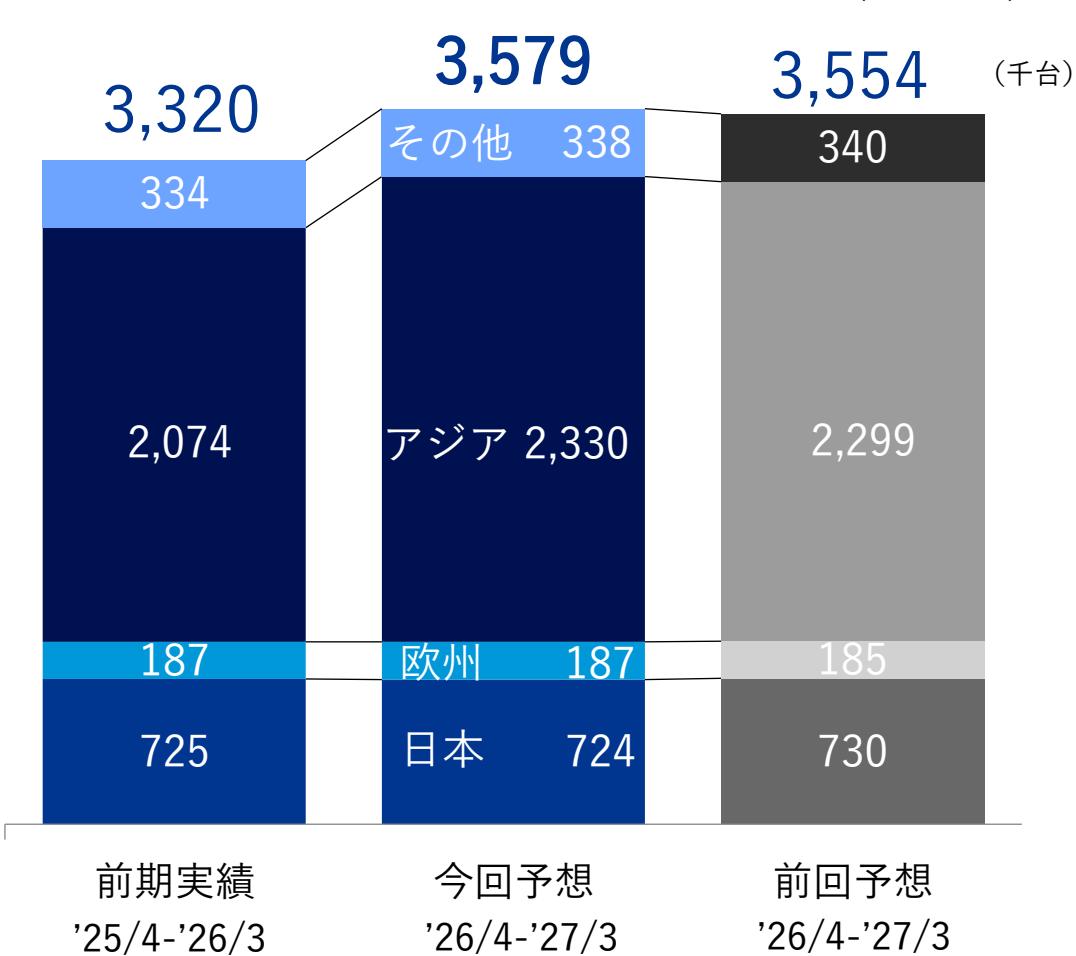
生産台数

3,774千台 前期比 +241千台 (+6.8%)
前回予想比 +18千台 (+0.5%)

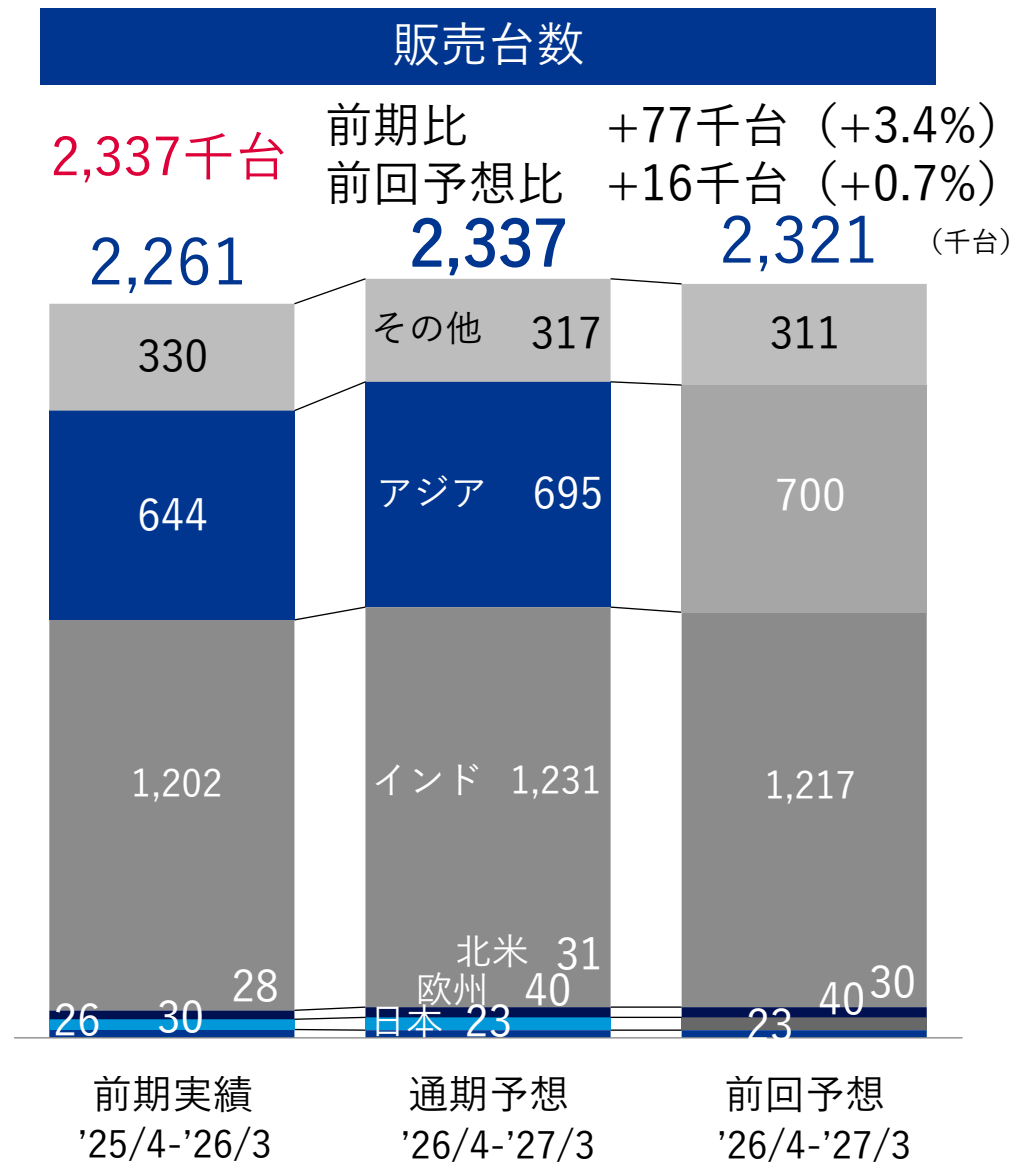
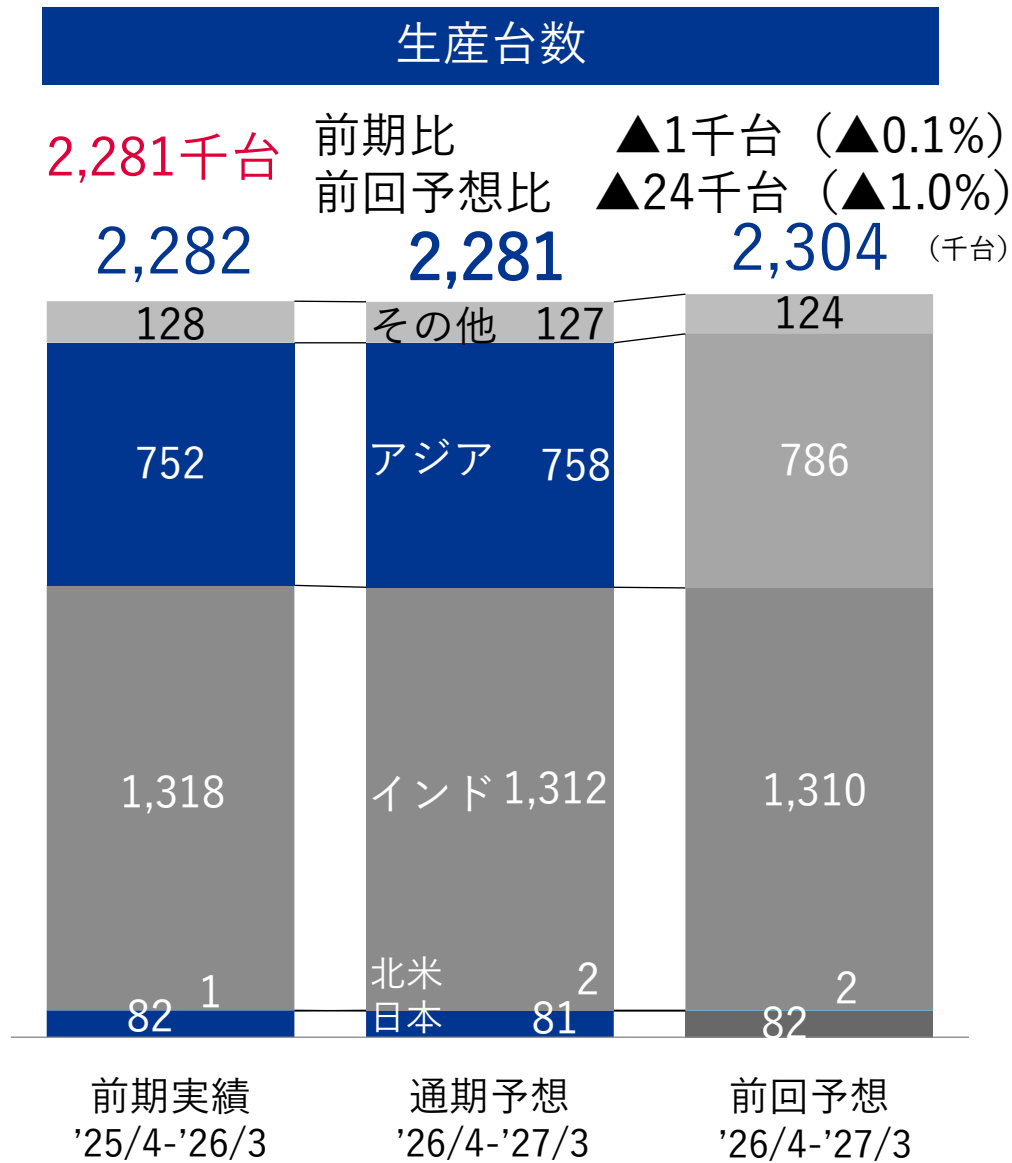


販売台数

3,579千台 前期比 +259千台 (+7.8%)
前回予想比 +25千台 (+0.7%)



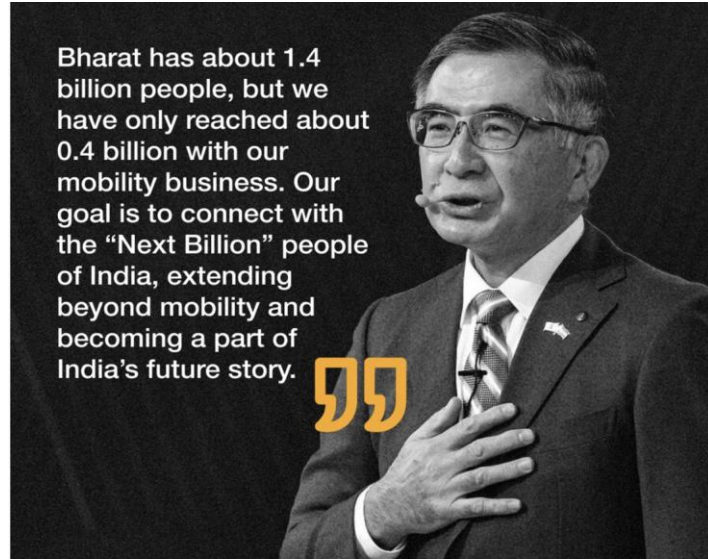
通期業績予想 | 二輪生産台数・販売台数



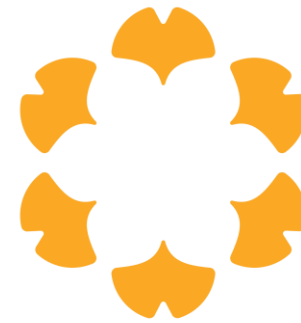
トピックス

トピック1：インド 次の10億人とのつながり(NBV)

- スズキ100%子会社であるNext Bharat Ventures (NBV) を通じ、農村地域の雇用創出・中間層の創出を目指す
- 26年7月に第2号ファンドに2億ドルを出資し、中小企業を支援



Toshihiro Suzuki
Representative Director and President
of Suzuki Motor Corporation



Next
Bharat
A SUZUKI INITIATIVE

少数のユニコーン企業の代わりに100～200社の中小企業を、農村地域に創出(中間層の創出)



中小企業支援のためのファンドを設立

ファンド1： 4,000万ドル(2024年)

ファンド2： 2億ドル(2026年)

⇒現時点で約200万人の所得を向上



インド14億人の人口のうち、まだ関わることでいていない次の10億人とのつながりを築くため、NBVを通じて偉大な起業家たちのコミュニティを育んでいく

トピック2：インド 次の10億人とのつながり(バイオガスプラント)

■ バイオガス事業に取り組んでおり、カーボンニュートラルと農村地域経済発展に貢献していく

■ スズキ100%子会社のSuzuki R&D Center India Private Limited (SRDI) がアッサム州にて

バイオガスプラントに関する覚書を締結

● 日印両政府主導でバイオガス事業拡大

- ・ 日印首脳会談を実施(7/1～3)
- ・ バイオガスプラントを1,000基導入するための「日印CBGイニシアティブ」立ち上げに合意
- ・ CNG車の普及等の需要拡大により、新たな成長市場を創出

● スズキのインドでのバイオガス事業

- ・ スズキは2023年よりインドの乳業組合と連携し、牛ふん由来のバイオガスプラント設置に取り組んでいる
- ・ 本年1月にはグジャラート州で2拠点目が稼働開始
- ・ 現在、計9拠点のプラント展開を計画
- ・ 上記9拠点とは別に、7月にSRDIがアッサム州での新プラント建設の覚書を締結



● インドにおけるCNG車の普及

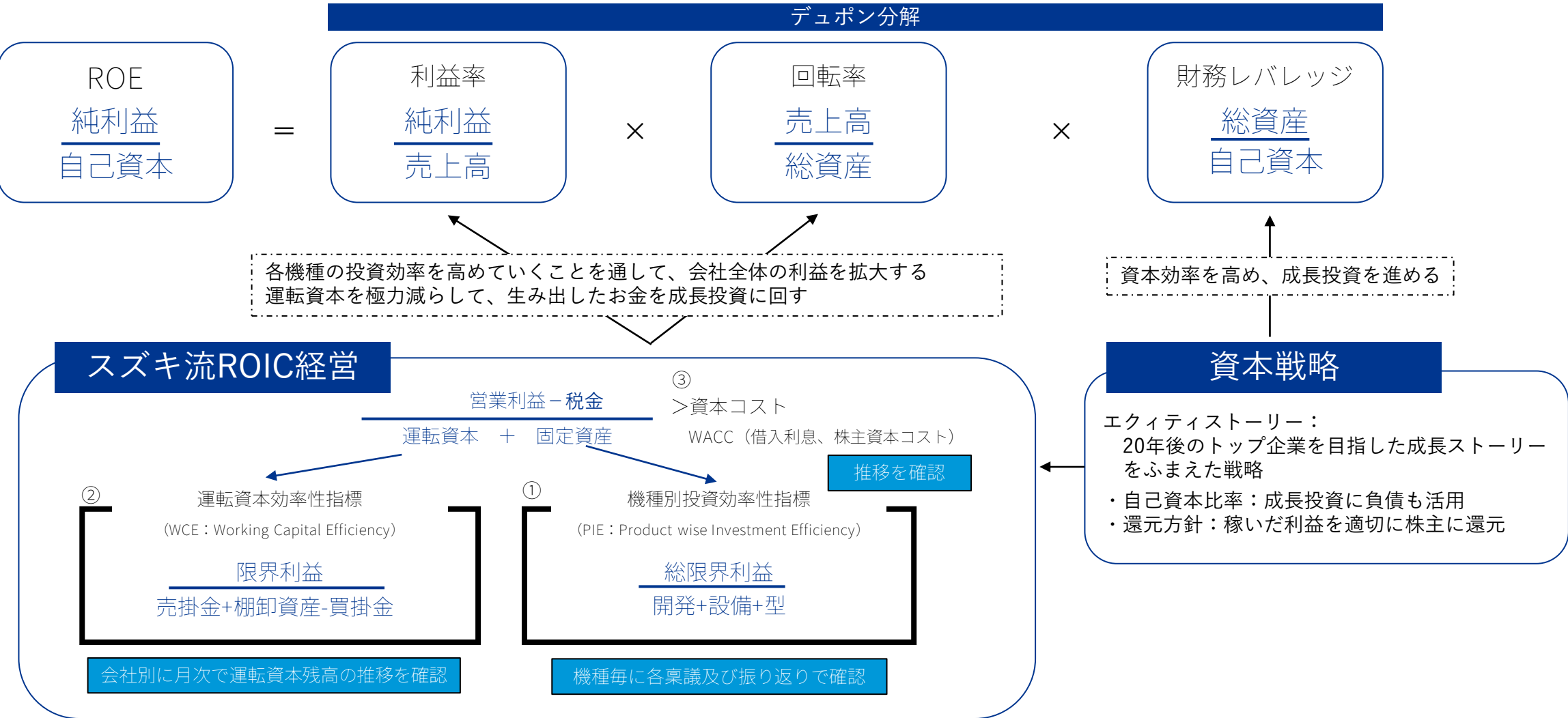
- ・ 乗用車市場全体のうち、CNG車の割合は23%、そのうちスズキは約7割のシェアを占める
- ・ CNG対応モデルとして新型「ブレッツァ」等を展開
- ・ CNGタンクを車体下部に配置し、プラントで生産されるバイオガス燃料も使用可能



※車体下部のタンクのイメージ

トピック3：スズキ流ROIC経営とROE

- スズキ流ROIC経営を通して、収益性の高い機種に投資しお金を生み出す効率を高めていく
- 利益を拡大していくことでROEの向上を目指す



トピック3：スズキ流ROIC経営を通じた企業価値の向上

- ・ 当期より資本効率を重視する取り組みとして、「スズキ流ROIC経営」を開始
- ・ スズキのOSである社是・行動理念の「3現・2原」・「小・少・軽・短・美」・「中小企業型経営」の実践
- ・ 今後必要性が増すコーポレートファイナンス・AI・地政学の分野を組み合わせていく



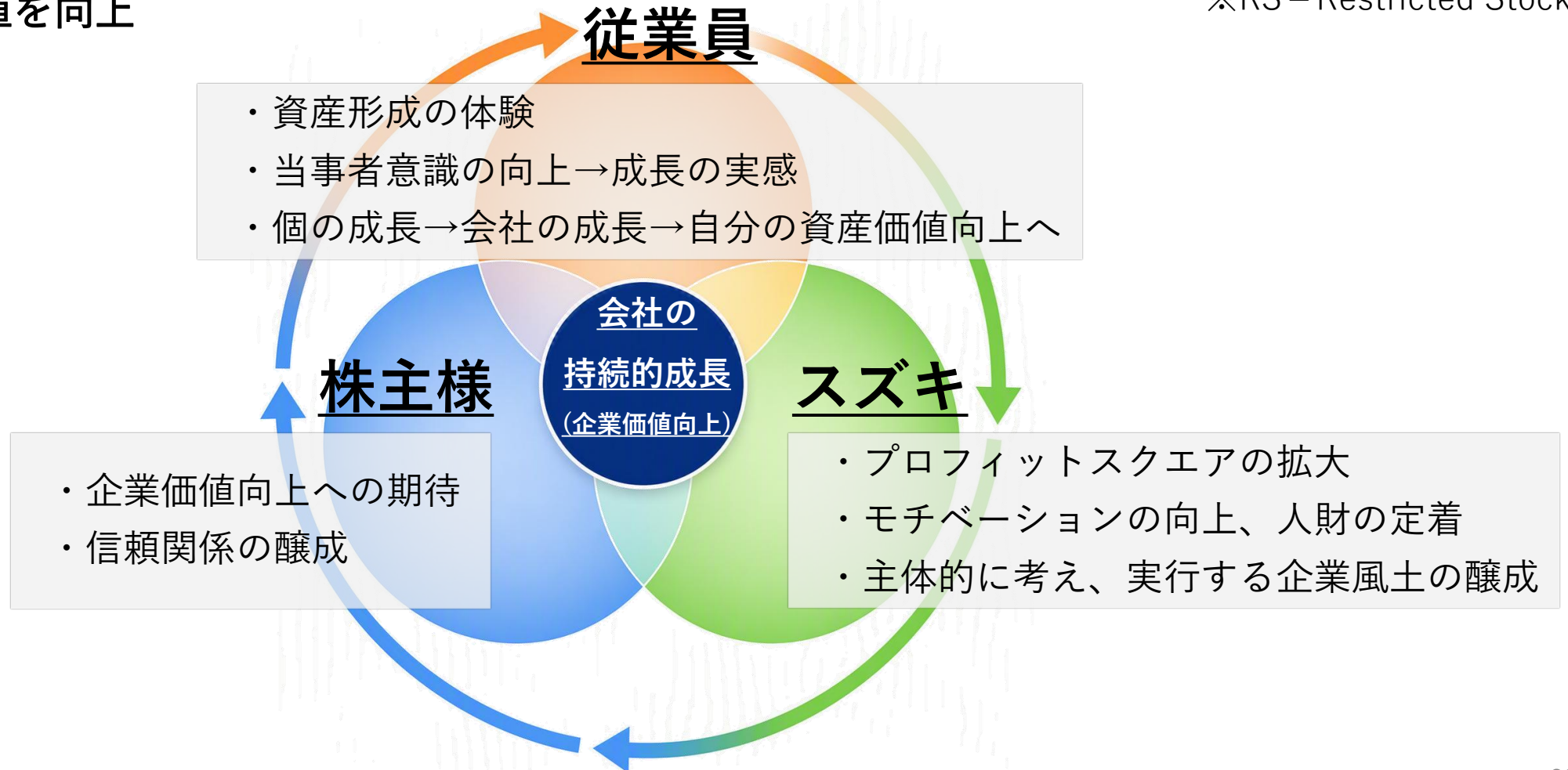
トピック4：従業員RS制度の開始

■中期経営計画の期間中、譲渡制限付の自社株(RS※)を従業員に無償で一定数付与する

■従業員の経営参画意識の向上・ファイナンシャルウェルビーイングの強化等により

企業価値を向上

※RS = Restricted Stock



補足資料

2027年3月期 第1四半期決算 | 売上収益の状況

(億円)	四輪			二輪			マリン			その他			合 計			増減内訳	
	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	為替影響	台数増減
国内計	3,866	3,759	+106	48	41	+7	9	9	▲0	28	33	▲5	3,951	3,842	+109		▲160
自 社	3,599	3,500	+99	48	41	+7	9	9	▲0	28	33	▲5	3,684	3,582	+102		
O E M	266	260	+7										266	260	+7		
海外計	11,551	8,819	+2,732	1,196	1,007	+189	360	310	+50				13,107	10,136	+2,971	+552	+2,468
欧 州	1,952	1,174	+778	155	126	+29	66	63	+3				2,173	1,362	+811	+201	+556
北 米	1	1	+1	112	111	+1	211	161	+50				324	273	+51	+30	▲3
アジア	7,796	6,060	+1,736	588	545	+43	29	29	▲1				8,412	6,634	+1,778	+88	+1,883
インド	6,673	5,242	+1,430	470	366	+104	3	3	▲0				7,145	5,611	+1,534	+0	+1,651
〃以外	1,123	817	+306	118	180	▲62	26	26	▲0				1,267	1,023	+244	+88	+232
その他	1,802	1,585	+217	341	224	+117	54	57	▲3				2,198	1,867	+331	+233	+31
総合計	15,417	12,578	+2,839	1,244	1,048	+196	368	319	+50	28	33	▲5	17,058	13,978	+3,080	+552	+2,308
内、為替換算影響			+422				+95				+35				+552		

注. 当期…2026年4月～6月期、前期…2025年4月～6月期、北米…米国・カナダ、北米四輪車…部品用品等

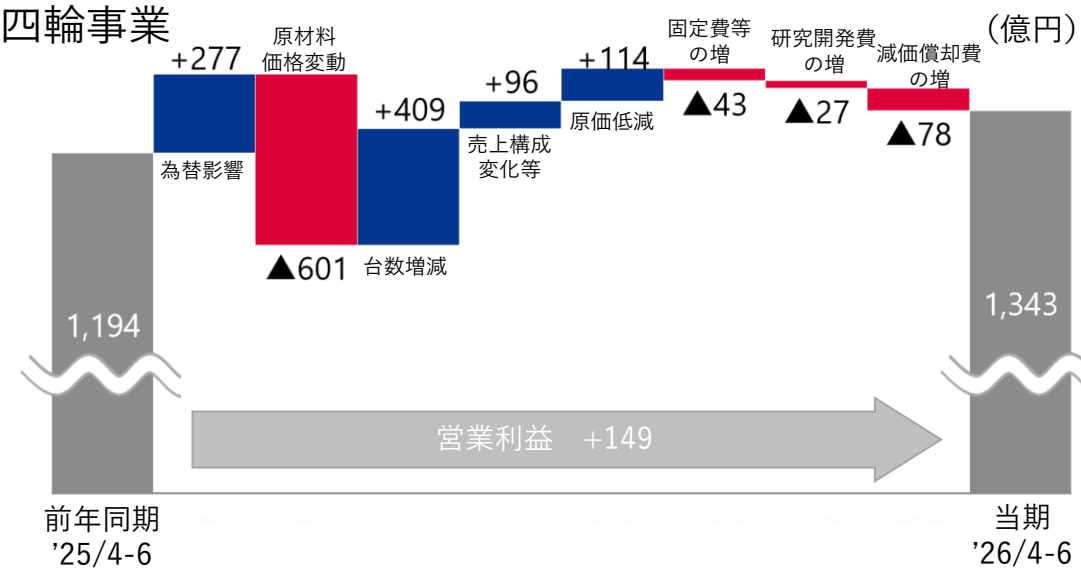
2027年3月期 第1四半期決算 | 事業別業績、営業利益増減要因

事業セグメント別業績

(億円)

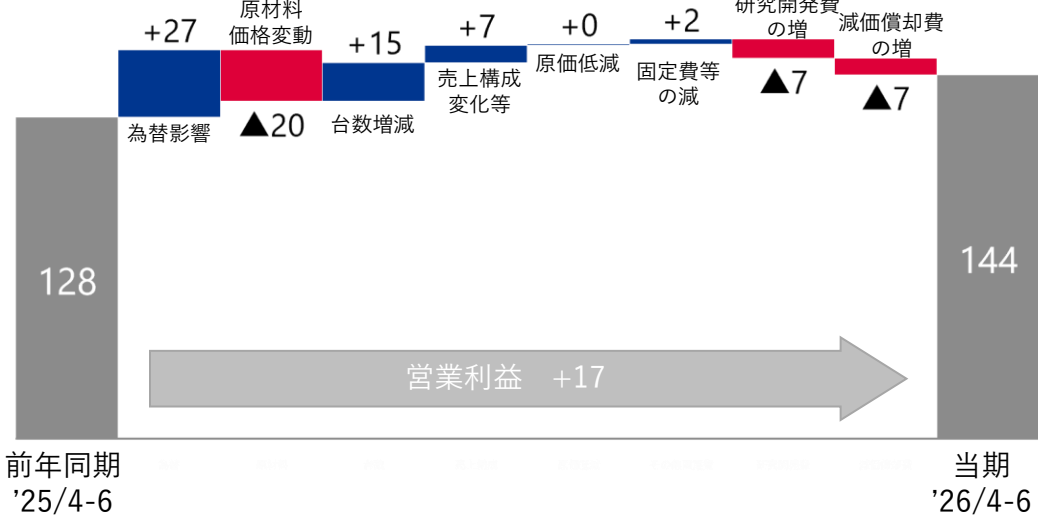
	'26/4-6				
	売上収益		営業利益		
		前年比		前年比	利益率
四 輪	15,417	+23%	1,343	+12%	8.7%
二 輪	1,244	+19%	144	+13%	11.6%
マリン	368	+16%	85	▲7%	23.2%
その他	28	▲14%	7	▲7%	25.2%
連結 計	17,058	+22%	1,580	+11%	9.3%

四輪事業



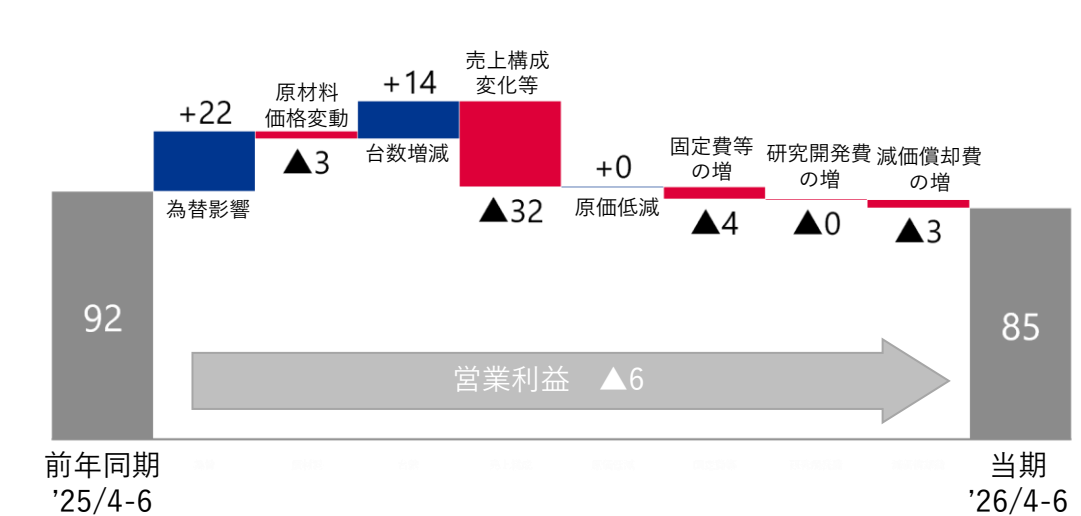
二輪事業

(億円)



マリン事業

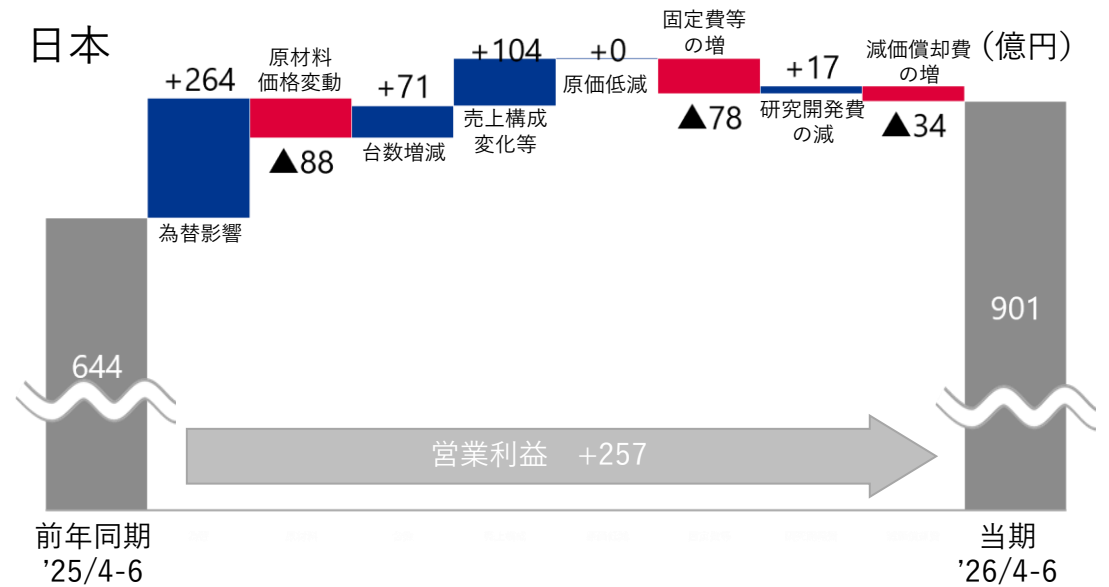
(億円)



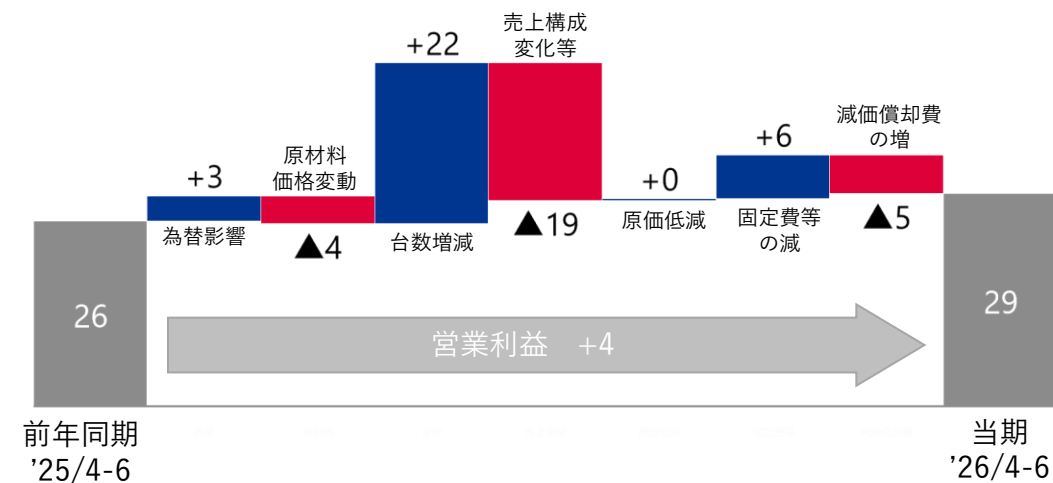
2027年3月期 第1四半期決算 | 所在地別業績、営業利益増減要因

所在地セグメント別業績 (億円)

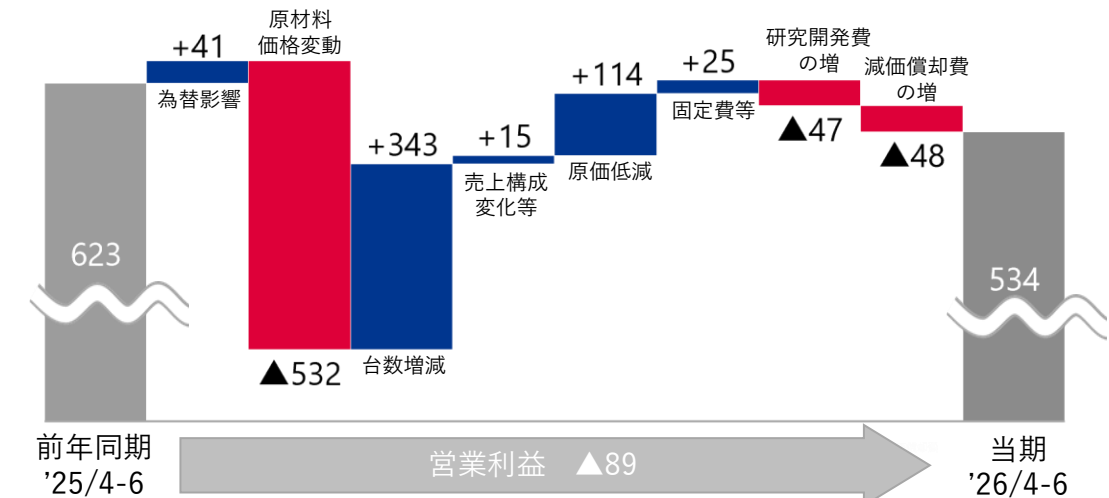
	'26/4-6				
	売上収益		営業利益		
		前年比		前年比	利益率
日 本	8,602	+20%	901	+40%	10.5%
欧 州	2,009	+28%	29	+15%	1.5%
アジア	10,269	+31%	534	▲14%	5.2%
その他	1,344	+23%	88	+85%	6.5%
連結計	17,058	+22%	1,580	+11%	9.3%



欧州 (億円)



アジア (億円)



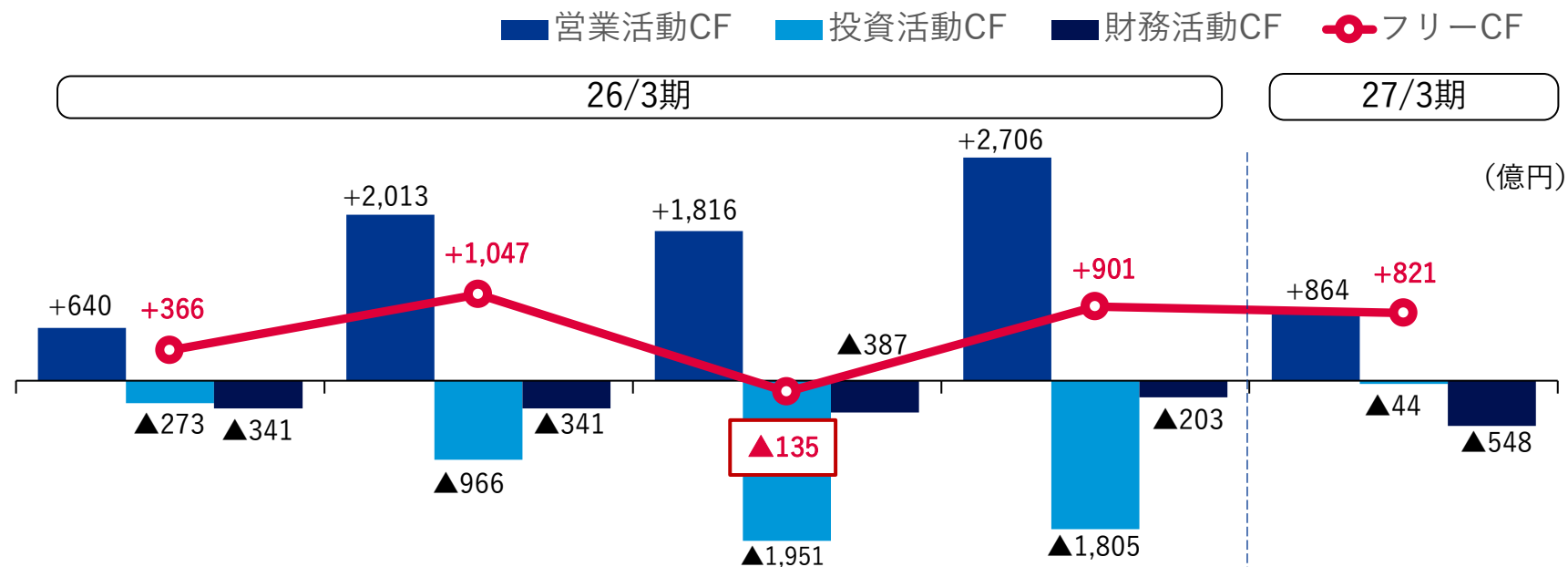
2027年3月期 第1四半期決算 | マルチ・スズキ・インドシア社の業績

		ルピー建（億ルピー） ※1			円換算額（億円）		
		当第1四半期	前年同期	増減	当第1四半期	前年同期	増減
連結業績	売上収益※2	4,996	3,662	+ 1,334	8,494	6,226	+ 2,268
	営業利益※3 （利益率）	253 (5.1%)	307 (8.4%)	▲53	431 (5.1%)	521 (8.4%)	▲91
	税引前利益 （利益率）	444 (8.9%)	494 (13.5%)	▲50	755 (8.9%)	840 (13.5%)	▲85
	税引後利益 （利益率）	345 (6.9%)	379 (10.4%)	▲35	586 (6.9%)	645 (10.4%)	▲59
	為替レート	1.70円	1.70円	—			
卸販売	国内販売※4	558千台	431千台	+ 127千台			
	輸出※4	125千台	97千台	+ 28千台			
	合計	683千台	528千台	+ 155千台			

※1 ルピー建は、7月31日付でマルチ・スズキ・インドシア社が発表した連結業績値
※2 売上収益 = Sale of products
※3 営業利益は次式により算出 営業利益 = Sale of products + Sale of services + Other operating revenues - Total Expenses + Finance costs
※4 国内販売および輸出はOEMを含む

注. マルチ・スズキ・インドシア社はIndAS（インド版IFRS）に基づき会計処理をしており、本数値はあくまでも参考値

2027年3月期 第1四半期決算 | 連結キャッシュフロー四半期推移



	26/3期				27/3期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
フリーCF	+366	+1,047	▲135	+901	+821
財務CF	▲341	▲341	▲387	▲203	▲548
(内、配当金支払額※ ¹)	(▲406)	(▲301)	(▲429)	(+0)	(▲464)
為替影響	+40	+101	+243	+14	+61
キャッシュ増減	+66	+808	▲279	+711	+334
キャッシュ残高	8,493	9,300	9,022	9,733	10,066
ネットキャッシュ	1,136	1,941	1,556	2,247	2,542
(月商比※ ²)	(0.2ヵ月)	(0.4ヵ月)	(0.3ヵ月)	(0.4ヵ月)	(0.4ヵ月)

2027年3月期 第1四半期決算 | 設備投資等

	当期 (’26/4-6)	前期 (’25/4-6)	増 減
設備投資	1,354億円	827億円	+ 527億円
当社単独	257億円	243億円	+ 14億円
子会社	1,097億円	584億円	+ 513億円
(内、インド)	(966億円)	(472億円)	(+494億円)
減価償却費	592億円	504億円	+ 88億円
研究開発費	655億円	621億円	+ 34億円

※ インド：マルチ・スズキ社、SMIPL社、TDSG社、SRDI社、Sデジタル社、NBV社 6社の合計
※ 無形資産に係る設備投資、減価償却費は上記の実績値に含まない

	当第1四半期末 (’26/6末)	前年同期末		前期末	
		(’25/6末)	増 減	(’26/3末)	増 減
有利子負債残高	7,524億円	7,357億円	+167億円	7,486億円	+38億円
連結子会社等数	121社	122社	▲1社	121社	± 0社
持分法適用関連会社数	37社	36社	+1社	37社	± 0社
従業員数	78,867人	75,983人	+2,884人	76,889人	+1,978人

※ リース負債は上記の実績に含まない

2027年3月期 第1四半期決算 | 為替レートと為替影響額

	当期 ('26/4-6)	前年同期 ('25/4-6)	前年同期比増減		営業利益 為替影響	
					感応度※2	影響額
ユーロ	185円	164円	+ 22円	+13.2%	+ 5億円	+ 114億円
南アフリカランド	9.69円	7.91円	+ 1.78円	+22.5%	※2 + 0.3億円	+ 48億円
メキシコペソ	9.18円	7.41円	+ 1.77円	+23.9%	※2 + 0.2億円	+ 37億円
米ドル	160円	145円	+ 15円	+10.4%	+ 2億円	+ 34億円
オーストラリアドル	113円	93円	+ 21円	+22.2%	+ 1億円	+ 25億円
パキスタンルピー	0.58円	0.52円	+ 0.06円	+11.5%	※2 + 4億円	+ 24億円
ポンド	214円	193円	+ 21円	+10.9%	+ 1億円	+ 12億円
インドルピー	1.70円	1.70円	—	—	—	—
その他※1	—	—	—	—		+ 31億円
営業利益為替影響額 合計						+ 326億円

※1 その他…影響額+31億円のうち、タイバーツ+12億円、コロンビアペソ+12億円 ほか

※2 感応度…レートが1円円安方向に動いた際の営業利益影響額。

ただし、南アフリカランド、メキシコペソ、パキスタンルピーについては、0.01円動いた際の営業利益影響額。

(億円)	通期予想	前期実績	増減
設備投資	3,800	3,507	+ 293
減価償却費	2,400	2,177	+ 223
研究開発費	2,800	2,711	+ 89

※ 無形資産に係る設備投資、減価償却費は上記の実績・予想に含まない

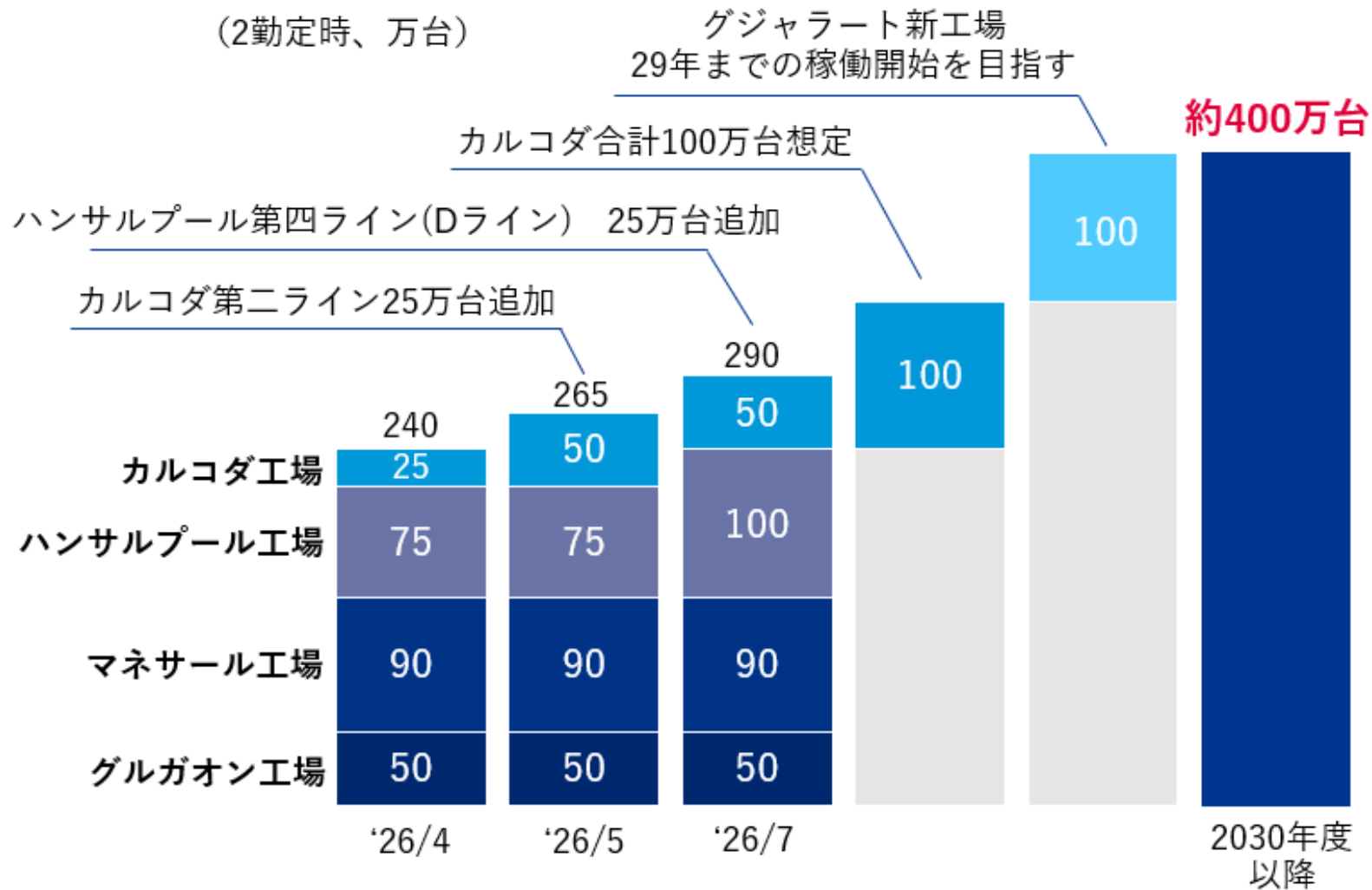
通期業績予想 | 為替レートと為替影響額

	通期予想 ('26/4-'27/3)	前期実績 ('25/4-'26/3)	前期比増減		営業利益 為替影響	
					感応度※1	影響額
ユーロ	183円	175円	+ 8円	+4.8%	+ 19億円	+ 163億円
南アフリカランド	9.60円	8.71円	+ 0.89円	+10.2%	※1 + 1億円	+ 94億円
メキシコペソ	9.10円	8.16円	+ 0.94円	+11.5%	※1 + 1億円	+ 73億円
米ドル	158円	151円	+ 7円	+4.5%	+ 9億円	+ 62億円
オーストラリアドル	113円	100円	+ 13円	+13.2%	+ 4億円	+ 54億円
パキスタンルピー	0.58円	0.54円	+ 0.04円	+7.4%	※1 + 13億円	+ 50億円
ポンド	213円	202円	+ 12円	+5.7%	+ 2億円	+ 24億円
インドルピー	1.68円	1.72円	▲0.04円	▲2.3%	※1 + 40億円	▲160億円
営業利益為替影響額 合計 ※2						+ 450億円

※1 感応度…レートが1円円安方向に動いた際の営業利益影響額。
ただし、南アフリカランド、メキシコペソ、パキスタンルピー、インドルピーについては、0.01円動いた際の営業利益影響額。

※2 合計はその他通貨の影響を含む

インド四輪生産ロードマップ





2027年3月期 第1四半期決算説明会



新型スーパースポーツバイク
「GSX-R1000R」



将来予想に関する注意事項

- このプレゼンテーション資料に記載した将来予想は、現時点で入手可能な情報及び仮定に基づき当社が判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
- 実際には、様々な要因の変化により大きく異なることがありますことをご承知おきください。
- 実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、地政学リスク、主要市場における経済情勢及び需要の動向、為替相場の変動などが含まれます。